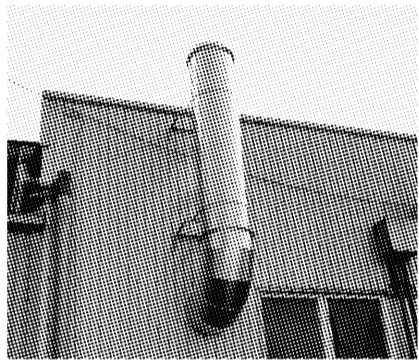


太陽光照明に参入

豪製システムに独自方式

フジモリ産業 産業用建屋向け



同照明システムは、屋根などから取り入れた設置の自由度を高めた、壁設置タイプの太陽光取り入れ用ダクト

ソーラチューブの日本総代理店である井之商(大津市)と太陽光照明システム「ソーラマスタ」の代理店契約を結んだ。フジモリ産業では同

事業を専門に手がける新規事業推進担当を新設。同担当の4人を中心に市場を開拓する。2014年3月期に年間1000台、5億円の売り上げを目標にしている。

フジモリ産業(東京都品川区、藤森行彦社長、03・5789・2070)は、太陽光照明事業に参入した。工場や倉庫、店舗など既設の産業用建屋向けを狙う。屋根から採光する豪州ソーラチューブ製の太陽光照明システムに、独自開発の壁面採光方式を加えた。壁面から採光することで最上階や南面以外にも採光部が設置できる。改正省エネ法施行などで自然エネルギーへの関心の高まりを背景に産業界に浸透させる。

太陽光を内面が反射率99・7%のアルミニウム製鏡面フィルム張りのダクトで導き、屋内を照らす。外部照度10万ルクス、ダクト長1.5mで、照明カバー直下1.5mでの照

度は約5000ルクス。価格は施工費込みで4万~6万円。現行の電気料金を基にした同社の試算では施工後7、8年で設置費用が回収できる。

屋根、壁面双方から採光できるため、設置の自由度も高い。清掃がほとんど不要で、結露しにく

いという。また、ダクト長1.5mの場合の重量は約5kgで、屋根荷重の面でも既設建屋への負担が少ない。ダクトの曲部は角度30~90度で調整できる。

同社は藤森工業の連結子会社。建材、化成、土木などの事業を手がけている。